Ｈ１７年度第１回山口県県民活動審議会会議事録

日時　平成１７年５月２０日（金）１０:００～１２:００
場所　共用第５会議室

（会長）
お配りしております審議会の次第に従って、議題を進めていきたいと思います。
今日はそこに、その他も含めまして４点掲げてありますけれど、まず議題１の平成１７年度県民活動促進事業についてですが、事務局の方からまず資料の説明を頂いて、それから意見交換を行いたいと思いますので説明をお願いします。

（事務局）
［説明省略］

（会長）
ありがとうございます。
始めにお話がありましたようにこの事に関しましては、昨年度の最後の会議で出まして、そしてまたこの会で再度検討するというものでした。今、ご説明頂きましたけれど、これに関して何かまずご質問を伺いたいと思うんですけれど、ご質問あればお願いいたします。

（委員）
市町村との連携強化ということが今、入っているわけですよね。当然これは是非やって頂きたいのですが、この実行委員会と市町村との連携というのはどういうふうに考えておられるか、ちょっとお聞きしたいのですが。

（事務局）
それでは、お答えしたいと思います。
県民活動情報交換会というのを実行委員会の企画・運営により、開催することを予定しておりますけれど、資料１ページ目の事業内容の３番のところを御覧頂きたいんですが、この中に「情報交換会を開催するにあたっては、市町村や県関係事業家の参画を求めて、より効果的な実施を図っていく」とあります。この情報交換会への参加を勧めていくことで、市町村との連携を強化していきたいというふうに考えております。

（委員）
昨年、行いましたと同じように、県内各地で情報交換会を開催すると。具体的には、そういうふうになるということですか。

（事務局）
はい。
実行委員会の企画・運営によりまして、そのような形に近付けたいというふうに思っております。

（会長）
ありがとうございます。
では、他にご質問でもご意見でも結構です。ないでしょうか。

（委員）
昨年、前回の時に県民活動団体との協働による、実行委員会の構成について皆さんからご意見があって、先ほども事務局の方から説明があったんですけれども、その時の趣旨として、本当に実行力のあるメンバーでやった方がいいんじゃないかということだったと、私は理解してるんですが。
結局団体数は変えないと、だけども、３つに分かれることによって、小回りが利くということができるんじゃないかということで、団体数をそのままにして３つのブロックに分けたということですよね。確認なんですけど。
それともう１つ、これも確認というか、こういうことでいいのかなと思って聞きたいんですけれども、そうしますとそれぞれのグループ毎は、それぞれに勝手に集まってやってね、ということでこの実行委員会、１.２.３.４回というのはその進捗状況とか、皆さんの道筋がちゃんとあっているかどうかというのを、皆で会って話をするという場になるということでよろしいでしょうか。
確認です。お願いします。

（事務局）
まず１点目、募集の対象について、それから個人を募集するのか団体を募集するのかという点について、ちょっと補足的に説明を申し上げたいと思います。
募集対象については、本当に慎重に検討を重ねてまいりました。個人を対象にするのかどうか、とか再度、約８００の県民活動団体すべてに募集をかけるのかどうかという点も視野に入れて考えましたが、団体を構成するのは個人でありますし、企画力・運営力を持った同じ方に実行委員会の立ち上げからキャンペーンの終了まで関っていただくよう募集の段階でお願いをすることで、個人の企画力や運営力は生かされるのではないかということ。それから、さらに昨年度、県民活動共同推進事業において、県民活動団体には積極的に応募いただき、この促進事業をどう捉え、どう進めていくかを熱心にご検討いただいた経緯からは、非常に前向きの感触を得ておりまして、一応のステップは踏んでいることなどによりまして、募集のターゲットを５１団体に絞らせていただきました。

（会長）
１つ目の質問ですけれど、団体の方の代表が出て結局数としては前回討議した２０名ということになっていることが、前回多いという意見が出たので、それが変わらないということは３つのグループに分かれたことによって解消できると考えておられるのか、という質問だと思うんですが。

（事務局）
はい。そうです。
それから、会議のほうですけど、会議は第１回と第４回は、全実行委員お集まりをいただく、それから直前のここで言います第３回位を全員の方にお集まりいただき、第２回としておりますようなところを各チームの進捗状況によって、回数を増やしたりすることも、

そのあたりは柔軟に考えております。

（会長）
ちょっと私が質問していいかどうかわからないですが、例えば、前回は人数のことで問題になった訳ですから、きらめき財団や県民活動支援センターのほうからどれくらいの方が人数考えておられて、それを３つのグループに分けると、１つのグループがどれくらいになるのかという人数をお示しいただくと、またちょっと違うのではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

（事務局）
はい。そうですね。
県民活動団体２０を、３チームですとだいたい６～７人に１つのグループがなるかという風に思いますが、それに財団、それから支援センターのほうから各チームには、１名ないし２名入っていただくような形になるんじゃないかと考えております。
（会長）
３つのグループに１名か２名ということですか。

（事務局）
はい。それぞれのグループにですね。

（会長）
わかりました。では、１つのグループがだいたい８名から多いところには９名になるかもしれないという、それくらいの数ですか。

（事務局）
そうです。

（委員）
続けて今の実行委員会の業務フローのところを見ながらお話をさせていただけたらと思うんですが、例えば実行委員はこの審議会とは直接関係なく動いてまいります。で、例えば最終回の１１月中旬の第４回実行委員会と、この審議会がリンクして状況を聞けるとより良い形で進むのではないかというふうに思っております。
というのが、審議会が次にあるのは３月の下旬という形になると、実行委員会の皆様方と当然、１１月６日のボランティアフェスティバルではお会いしたりということはあると思いますし、その間に私たちが前年度と同様、地域に出かけていって、そういう場を体験するということになれば、ここに一緒に何か提案とか提言とかっていうところの場にいたほうが、情報を共有できるのではないかというふうに思うんですが、その点はいかがでしょうか。

（事務局）
今のご意見は、来年度色々な計画を立てていく上でも非常に大切なことというふうに思いますので、この審議会の委員さんと実行委員会の意見交換とかできるような場というのも、今後検討して加えてみたいというふうに思います。

（会長）
ありがとうございます。それは、予算的には可能ですか？

（事務局）
はい。可能であります。

（会長）
わかりました。では、ご検討いただければと思います。
ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（委員）
実行委員会に私たちが出ないとすれば、私たちの思いと言うのは少しは入らないと思うんですね。それで実行委員にちょっとお願いというか、県民活動パワーアップ賞は、去年私も出させていただきました。これは、知事がお渡しになるからかもしれませんけれども、県庁であったんですが、これは折角魅力ある地域づくりの在り方を紹介するとあるのに、本当に報道の方しかいないと。で、私たちがちょっといるだけで、折角なのに誰も知らないんですね。
で、他の団体、表彰されるのは、ボランティアフェスティバルで表彰されたんですが、そのとき一緒にこれはできないものかな、でその時に是非知事にもいらしていただいて、やっていただくというのを実行委員会でも取り上げていただけたら、そのほうがもっとみなさんにパワーアップ賞というものを知っていただく機会になるんじゃないかと思いますが別個のものなんですが、その辺は私にもちょっとわからないのでお聞きいたします。

（会長）
はい。パワーアップ賞のことなんですが、いかがでしょうか。

（事務局）
はい。現在の予定では、パワーアップ賞の表彰式は、昨年どおり１０月上旬を予定し、それから、受賞団体の活動の詳しい紹介を１１月６日のフォーラムで例年どおりご披露したいなというふうに考えております。けれども、それを同じ機会に大きな規模でというのも、今後また検討させていただきたいというふうに思います。

（会長）
はい。ありがとうございます。他にないでしょうか。

（委員）
確認なんですけれども、この実行委員会の中の主な業務の中に、県民活動ボランティアフェスティバルにおけるフォーラムの企画・運営というのがございますが、これはボランティアフェスティバルの中のフォーラムという一部の企画・運営ですよね。全体ではないですね。全体は別にあるんですよね。

（事務局）
はい。

（委員）
はい。わかりました。

（会長）
はい。ありがとうございます。他によろしいですか。
ではもし、ご意見ご質問などなければ、次の議題に移りたいと思います。
議題の２ですけれど、平成１７年版　県民活動白書の作成についてです。では、事務局の方から説明をお願いします。

（事務局）
［説明省略］

（会長）
はい。ありがとうございました。
では、この県民活動白書についてですが、何かご質問はありませんか。
ご意見でも結構です。

（委員）
はい。ここの記述のところで、協働ネットワーク事業と、協働事業という書き方があるので、ちょっと意味合いが違ったら教えて欲しいんですけど。

（事務局）
協働ネットワーク事業というのは、平成１６年度にきらめき財団のほうで実施された事業名でございます。で、後は一般的に、協働という表現をさせていただいています。

（委員）
県民活動団体が８００リストあがっているということなんで、８００団体の一言でも、何かメッセージが載っているというようなものもひとつ、実態が掴めるんじゃないかな、様子がわかるんじゃないかなと。
それは、市町村別のほうがいいのか、どういう分類がいいのかわかりませんが、どんな活動をしているのか８００団体もあれば、かなり皆面白いデータにもなるんじゃないかなと思います。それと併せて、今どんな調査をおやりになっているかということ、その調査の結果で何をひきだそうとされているのか、その辺りも併せてお聞かせ願えればなと思います。

（会長）
はい。ではお願いいたします。

（事務局）
団体の調査につきましては、白書の第１部の中で、経年比較が採れるというのがまず大

前提ということで、昨年、一昨年作りました白書のデータと比較できるというような形での調査項目が１点と、今年は、行政と協働したい取り組みなどありますかということで、具体的に県民活動団体さんが、行政とどういった事業を協働したいかということを自由に書いていただくような形で調査項目を加えているのと、あと県民活動支援センターのあり方みたいなのを、どうあってほしいとか、どういったことを希望するとかいうのが書けるような形の自由記載というのを設けて調査をかけております。

（会長）
はい。ありがとうございます。
始めのご意見の、８００団体のコメントっていうのはどうなんでしょうか。可能なんでしょうか。それとも、例えば、今回の白書ではだいたい何ページくらいのものを予定しているだというようなことはございますか。

（事務局）
だいたいページ数とか、構成等についてはだいたい昨年と同じぐらいで考えておりまして、内容的なものが変わればかなりそこのあたりも検討課題になろうかと思います。やはりかなり団体数が多い関係で、すべてというのはなかなか難しい状況とは思いますけど、おっしゃるように確かにいろいろな団体のいわゆる紹介あたりを踏まえて、どんな実態かというところも重要かと思いますので、そこはまたなんらかの形の検討なりということで。
白書の中での盛り込みというのはちょっと構成のあたりで難しいというふうに考えます。

（委員）
実際僕たちが思っている、掴んでいる、あるいはお付き合いしている、ここの場合ですと、県民活動団体なんですけれども、現場はもっとどんどん変わっているんですよね。
例えば構成が２０人、３０人、あるいは５０人規模でという人数でいうのか、あるいは２～３人、４～５人位でというかということでも分類ができたりするんでしょうけれども。日々、本当に色々なグループや団体が生まれている、もちろん消えている部分もある訳ですけれども、本当に一人一人の、あるいは課題に応じてそういった動きが多分、沸々と山口県内でもいっぱい動いてるんじゃないか、そういったものが条例を看板にして白書を作らなくてはいけない、あるいは白書を充実させるというような意味合いを持たせながら、調査というのをそういう方向のひとつ、柱も立ててもらいたいなと。これは、今年度の作業ということではなくて、これから調査される中では、特に現場が先行して動いているという視点をもっていただけたら、非常にリアルに状況が掴めていけて、あるいはそれに対する方策というのも提案できたりするのではないだろうかというような気がします。すると、どうしても自分たちの活動領域だけで、もの事を見たり考えたりしやすいし、先行的に動いているのはまだマスコミ側の方が応援気分もあったりして、小さな動きも即座に拾っている気がするなと思うんですけれども、そういったところに少し視点を持っていけたらなというような気がします。

（会長）
はい。よろしいでしょうか。
１つ、白書のあり方といいますか、どういうものにしていくかという今後の１つの課題でもあるかと思うんですけれども。他には、ご質問、ご意見ございませんか。

（委員）
作成方針のところの１行目に、県及び市町村の協働事業の主な事例のことについて、ちょっと提案というか、お話したいんですけど、市町村と団体の協働だけではなくそれぞれ団体同士の協働についても是非触れて欲しいんですが、その辺はどうお考えですか。

（事務局）
貴重なご提案でございまして、特に今回団体間の協働については、１６年度にきらめき財団で行われた協働ネットワーク事業がまさしくそこの部分で、今回は特に情報収集はしておりませんから、この部分についてご紹介という形を考えておりますが、今後も団体間の協働でどういうものが行われているのかそこのあたりも調査を行うとか、ご提案については是非、今後の検討の方をさせていただきたいと思っています。
今回はこういう形で団体間の協働についても、きらめき財団の事業の紹介ということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（会長）
はい。ありがとうございます。
ちょっと質問なんですが、協働ネットワーク事業っていうところの中に、団体間の協働について触れている箇所があるということですか。

（事務局）
はい。ここの事業自体が各地域での団体で、いわゆる協働によって事業を行われたという、事業の紹介になります。

（委員）
今の協働ネットワーク事業の詳細を少しお知らせします。
昨年３ヶ所できらめき財団から委託を受けてやった、県民活動支援センターのセンター長でしたので、少しお話させていただきます。
大島・柳井地区では、約１０団体位の団体の代表の方が、実行委員会に入って下さって、夜、４～５回の会議をもちながら、実際に夏、８月に行いました。その事業の中ではみんなが集まりながら、大島・柳井地区に支援センターがあったらいいな、という話が非常に出まして提案書が出されました。
その後も既に大島では、３回位実行委員会が開催され、現在もそういった方向で動いています。それにはやはり、地域に根ざした団体さんが、お互いやりたいことがあるし、団体に任せてもらえたらそういう活動も広がるのにというようなお話もありましたし、いい形で本当に代表的な方がいらっしゃるので、そういう方々を中心に動いています。
それから柳井の後に行われたのが、小野田・山陽地区だったんですが、そちらでは交流というような大きなテーマで、そちらにもやはり８団体以上の団体の代表の方が集まって何回か会議を重ね、実際に開催されました。そこでのテーマは、団体のネットワークづくりということで、アイスブレーク、お互いが緩やかな人間関係ができるような、そういった体験を行いながら自己紹介をしたり、団体の紹介をしたり、あと小さな分科会みたいな中で自分達のやりたい話や、お互いの団体を知り合って今後何ができるかというような、そういった協働ネットワーク事業が行われました。
そして、３ヶ所目が萩です。萩では、萩の子供センターさんを中心に、親子劇場の分身

の第１号のグループさんを中心にしたＮＰＯ法人さんが代表だったんですけど、ちょうどそのセンターがある商店街を中心として活動をなさったお陰で、２日間行われましたが、３００名以上の方の参加があり、高校生の託児といったようなおもしろい体験もできる、そういった取り組みも実行委員会の中で提案が出されて行われました。

この特徴的なことは、先ほど浦野委員さんが言われたように、団体同士が今まで近くにいたけど交流の場がなくてお互いあまり知らなかったけれども、こういう会議が重なることで団体間のネットワークが広がったということ、また今後に向けてお互いが知り合ったことで次の展開が考えられたという大きな成果を生んだのではないかと思います。

浦野委員が言われたように、協働というのは市町村だけではなく、団体間、もしくは企業との協働といったような別の視点もあるかもしれませんので大きな形でこういう協働が広がっていけばいいのではないかなと思います。少しご紹介させていただきました。

（委員）

県民活動の関連・実績というところなんですが、視点がまだ協働事業というのは発展段階にあると思うんですね。去年の情報交換会でもそうですし、私も市町村の中で色々やっていてもまだまだ発展段階なんです。そういう意味ではせっかくのこういう白書で、こういう考え方でこういう協働をやろうという、始めスタートしたとか、今スタートしようとしているとか、そういう情報を発信して欲しいなと思うんですね。

とかく、こういう成果が出ましたという成果発表というニュアンスではなく、発展途上にあるという視点でどういうふうに情報を集めるかというのが問題でしょうけれども、やっぱり調査も含めてそういう発信をしていていただきたいなと、こういうふうに希望します。

（委員）

先ほど団体間の協働というふうに言われたんですけれども、やはり色々な団体が、１つではやりにくいけれども、２つ・３つ・４つと一緒になってやると色々な委託金を貰えたり、助成を貰ったりして大きなことができますよね。そういうメリットがあって、協働ということを段々連携しながらやっていると思います。そのときにやっぱり実際にやってみますと色々な問題が出てきましてね。ですから今回の事例がたくさん、特に県というのがありますけれども、先ほどの民間の連携なんかでも、協働の中での色々な役割分担だとか、また何故協働をするのだとか、あるいはやってみてどういう問題があるかというのが具体的にあると、これからされる方々にとってこの白書がとても参考になると思うんです。

だから、この白書の利用の仕方っていうのは、団体にしても県との協働にしても、そういう意味でこれを見ることによって、これからされる方々が、協働というのはこういう考えでこういう視点を持ってやらなければならない、こういうことをしていかないとやはりメリットがない、協働することによってやはり団体間のメリットがあり、より力が付くし、また行政もそれによって力が付くみたいな感じの、そういったものが具体的に参考になるような表記の仕方っていうのがあればいいんではないかなというふうに思っています。

（会長）

はい。ありがとうございます。

その協働事業の事例紹介のことに関してなんですけど、成果発表ではなくてスタートしている方たちの内容紹介だとかというご意見もでておりますので、今の２人の委員のご意

見を合わせた感じでどういう形でこの中に事例を紹介なさるのか、もしありましたらご説明いただけませんでしょうか。

（事務局）
具体的なものは今から情報収集など行いますので、今いただきましたご意見を充分参考にさせていただきまして、今後の情報収集、それから作業にあたりたいと思います。
ご意見ありがとうございます。

（会長）
はい。ありがとうございます。では、他にご意見ないでしょうか。

（委員）
昨年の県民白書の作成の時もお話が出たと思うんですけど、中学校・高校の対象を選ぶ基準というか、全学校を対象にしては昨年はやられなかったんですよね。今年は、学校ですとか、対象の選定というのはどのようにされたんでしょうか。

（事務局）
中学生・高校生のボランティア活動に関してですか。今回は、昨年度やった関係について、今回はこれについての調査は行っておりません。今後は経年比較というのもございますけど、毎年ということではなくてある程度、２～３年とかに１回にという形で考えております。昨年の調査を元に次回には、ご意見を今後検討させていただきます。

（会長）
はい。ありがとうございました。他にご意見・ご質問ございませんか。

（委員）
今のご質問に追加なんですけど、意見になるかもしれません。
大学の学生さんが最近すごくボランティアに興味を持って、色々な形で関っていらっしゃるので、大学を対象としたそういった調査も是非行っていただきたいなと思います。というのが、県民活動団体の中で若い方のパワーを貰って一緒にやりたいという場合、前回先生が言われましたけれども、例えば梅光でありましたらどこの担当があり、それから県立大学だったらどこが、山大だったらどこが、岩国だったら、というようなその代表の方のお名前ですとか連絡先、それから主な活動やどういうことを今までやってきたかということがわかれば、県民活動団体さんが最寄の学生さんと一緒に協働事業を行ったり、ボランティアで少しパワーが足りない時や知恵が足りない時や若い方々の協力があったほうが動きやすい時、きっと大きな力になっていただけますので、そういった方々の情報というのを団体の皆さんは非常に求められている、また色々な形でそういう方々が地域に出かけて行って、インターシップに関りたいという方が非常に増えてきていますので、そういう方々との連携も図れるのではないかというふうに感じました。
是非機会があったらよろしくお願いします。

（会長）
よろしいでしょうか。

アンケートをとる場合の対象をもう少し、大学生のほうまで広げるということですけれども。他にご意見ございませんか。

（委員）
前回の会議で調査の時に、ヒアリングをできれば充分やって欲しいという意見もあったと思うんですけれども、その結果どうなったかをお聞きしたいんですけれども。

（事務局）
申し訳ございません、ヒアリングというのをもう少しご説明していただけますか。

（委員）
アンケート調査表を見ただけではわからないと思うので、個別にインタビューというか、そういうことをすると調査票だけでは見えない部分、本当に生の声が出るんじゃないかという意見が前回あったのでそれについて今回調査の中に盛り込んでいただけたかなということを聞きたかったんです。

（事務局）
今回はいわゆる協働の事例あたりを情報得た上で、ある程度原稿化するには取材も必要かなと考えておりますので、そこのあたりはまたケースバイケースで情報収集の中で取り入れられるところは取り入れたいと考えております。

（会長）
よろしいですか。

（委員）
はい。ありがとうございます。

（会長）
ありがとうございます。他にご意見ありませんか。

（委員）
広島でも随分苦労しているのは企業との関係をどう作っていくのかということなんですが、今度編集される白書の企画案の中にも割りと企業のことが書いてなくて、企業自身もＣＳＲも含めて社会貢献をどうしようかというところも大手だけではなくて、中小もぼちぼち考え始めているのではないかと思うんですよね。
そういった先例になるような、企業が少し果たしている状況あたりも、事例も含め、方向性というようなところも、ご提案いただければと思います。これは、県行政としてという方向性ということになるかもしれませんけれども。そういうのもあると、さっき大学の関係で連絡先辺りが明確になればということですけれども、ＮＰＯ側にしてみても、手持ちのこまが見えてくるほうが割りとアタックしやすいんじゃないかというような気がします。
それとさっき協働、団体間ともそうですし、企業ともそうでしょうし、今我々も実際問題、助成金も活動助成も含めて配分できないという広島の状況からして、今考えているの

はやはり新しい事業をジョイントしながら作っていくと、協働しながら作っていくという、単なるイベントの部分だけではなくて、それぞれのＮＰＯ団体が持っている本来の業務の部分での協働にまで踏み込んでいけるようなしかけというのが多分支援センター辺りの役目としては非常に大きくなるんではないかなと思っています。そういう協働のあり方ももうぼちぼち質の面で、割とネットワークというと仲良く・楽しく・おもしろくというようなところでおわってしまいそうなので、それを踏み越えた形での、いってみれば次の段階に入っていくような協働の提案というのもあっていいんじゃないかなと思います。
もちろんそれぞれの県民活動団体では、段階的にまず出会いの場作りということもありましょうけれども、それを１歩進めてというようなところでの事例紹介辺りも出てくると、イメージも広がってくるんじゃないかと、企業がやっているような、あるいは業務の関係でも異業種交流のような感じでとんでもない団体と連携することで、次の発展というのがでてきたりする、あるいはそれに研究会と称して県の各部将の関係の方々が入っていただく、あるいは国もそうですし、企業もそうですが、そういった方々に興味・関心を持っていただくようなステージを作るプラットホームを設定していくみたいなところも、提案辺りに出てくると切り口の違う、あるいは視点の違う県民活動の動きというのも期待できるんではないかなというような気もしますので、白書がただ単に１年間の記録でということではなくて、指導制のある白書というような方向性を提示できるような白書というような物になればいいな、願わくば３年くらい先には白書の編集はＮＰＯに委託するくらいのことも今のうちから考えていただくとありがたいなと思います。
　そういうところにも是非期待をさせていただきたいなと思っておりますので、今のうちから検討いただければと思います。

（会長）
　ありがとうございます。
それぞれの団体が、今の段階よりもステップアップしていくことができるような白書であってほしいということ、また新しい白書を今度はどこが作るかという新しい提言も出てきました。事務局のほうよろしいですか。何かありますか。

（事務局）
　色々な貴重なご意見、大変ありがとうございました。

（会長）
　他にご意見ございませんか。なければ、次の議題に進みたいと思います。
　議題３の「平成１７年度審議会スケジュール」についてです。
　事務局のほうから説明お願いします。

（事務局）
［説明省略］

（会長）
　はい。ありがとうございました。
　この、審議会の予定のことに関しましてご質問または、ご意見ありませんでしょうか。
　例えば、こういうことを話し合って欲しいということがあれば、追加の意見を書く紙が

入っていると思うんですが、こういうところに書いたらよろしいですか。

（事務局）
もちろんそれでも結構ですし、他の手段でも、「こういう風な事案があるけれども、こういうことについて是非話し合いたいので」という風なことでこちらのほうに提案・情報提供いただけたら前向きに検討させていただきたいと思います。

（会長）
はい。ありがとうございます。
では、意見表やメールのアドレスが意見表の下にありますので、メールでもいいということですね。
それからちょっと１つ確認なんですが、先ほど船崎委員のほうからご意見が出ましたけれど、実行委員会の方たちと何か会う場を設けるとすれば、例えば今第３回までの審議会が書いてあるんですが、２回目と３回目の間に、１回入る可能性があるということですよね。

（事務局）
そうした考え方も出来ますし、４回目の実行委員会にご一緒していただくというのも１つのほう方法ではないかなという風に思っておりますので、どういう風な方法が最もふさわしいのか、効果的なのかその辺はこれから検討させていただきたいと思います。

（会長）
はい。わかりました。ありがとうございます。時期としては１回どこかで入るかもしれないという事ですね。
今年度の予定に関してはよろしいでしょうか。

（委員）
７月の開催は今決めるのは難しいんですか。議会と、色々な関係があって決まるんでしょうけれども、決まれば今決めていただくと助かるんですが。

（事務局）
７月の中下旬ということでできるだけ特定は早目にしてお知らせをさせていただきたいと思いますが、今の時点では議会が７月の１０日位まで開催されますので、それ以後になるということだけがはっきりしている程度で、出来るだけ早目に調整をしまして皆様方のほうにお知らせをさせていただきますのでよろしくお願いします。

（会長）
よろしいでしょうか。お忙しい中に皆様にこうやってご出席いただいておりますので、事務局のほうでもなるべく早く出してくださると思います。
では、ご質問・ご意見なければ次に移りたいと思いますが、議題４の「その他」ですけれど、事務局のほうからご説明おねがいいたします。

（事務局）
では、やまぐち県民活動きらめき財団さんのほうでの１７年度事業として「県民活動コーディネイトシステム」の構築に向けて現在取り組みを進めておられますので、副理事長さんからご紹介頂きたいと思います。

（副理事長）
［説明省略］

（会長）
ありがとうございました。
では、今の「コーディネイトシステム」についてご質問・ご意見ありましたら伺いたいと思います。

（委員）
事務局の方にご意見として伺いたいんですけど、先ほどＩＴについてお話がありましたが、実際僕なんかは去年からこの審議会に入って全く素人でわからない部分が多々あるんですけれども、委員さんと、あるいは実行委員会、あるいは事務局との電子会議室のようなものが開設できないかなというのがあるんですけれども、その中で資料を事前に郵送で送ってこられていると思うんですけれども、それには当然経費というのがかかってますし、そういったのがメールで届けばそれを事前に見て、またこういったことを質問してみたいと言えばまたメールで質問もできますし。
それで、この審議会が次にあるのは７月くらいですよね。その期間が当然開くのでその間、事務局の皆様も、委員の皆様に聞いてみたいこととか多分あると思うんで、そういったことをそういう会議室があれば意見を聞くことができますし、こっちのほうがわからないことは逆に委員の皆様にも事務局の皆様にも聞けるという利点があると思うんですよね。
今、私が所属してます青年部、県内に今１４団体で９７５名いまして、全国でいいますと４０１団体で３万人の会員がいます。これが「エンジェルタッチ」、ＡＴというツールを独自に作りまして、会員は無料でできるんですけれども、色々な情報交換・意見交換・ビジネスがＡＴですべてできます。そういったものを今開設して利用しているというのがあるんですけれども、そういったものを経費的なものもありますが、この審議会でできるかどうか、ご意見を伺いたいと思います。

（事務局）
県では、電子県庁ということでいろいろ進めてはおりますが、セキュリティの問題とかいろいろありまして、私どもだけで作るということが果たして可能であるかどうか情報関係課にも確認させて頂いて、今後の研究課題ということにさせて頂いたらと思います。

（委員）
以前、県民活動促進条例を作るときに、前文を当時のメンバーの人たちと話し合うときに、メーリングリストを立ち上げてやったことがあります。
団体が全員ではないんですけど、そこの委員になっている皆さん方で支えていこうということで、やったことはありました。

ただ、環境的にメールが使えない方やいつもご覧になれない方もいらっしゃるので、発言が一部の方に偏ったり、多くの方のご意見を頂くと別の方からＦＡＸ頂いたのをメールで打ち込んでお互い共有するといった一手間かかりましたが、そういった形で行ったこともありましたのでご報告します。

（会長）
永田委員の始めにおっしゃった書類などの送付ですね、それをメールで添付するということですが、これは、どの程度進んでいるのでしょうか。

（事務局）
今回は、郵送させて頂いておりますが、今後、ご希望等あれば、それぞれ各委員さんごとに状況が異なると思いますので、別途調査させて頂いて、ご希望には、メールを送信させていただくようにいたします。

（会長）
それでは、意見票のところにメールのアドレスを書いていただいて、メールでの添付希望として頂いたら、それでわかるかと思うんですが。

（委員）
コーディネートシステムのことなんですが、是非このシステムを進めてほしいのですが、こういうものは双方向なんですよね。例えば、企業とか行政とか大学というのは市民活動団体に対して、支援するだけではなくて自分たちとしてメリットがある。そういう視点だろうと思うんですよね。県民も情報収集ではなくて、自分で活動するという前提があるとそういう意味で、作った人が責任を持って活用すると前提があり、したがってユーザーがどういう問題を抱えてて、それを、バージョンアップの話も出ましたが、それもやって作ったものに対して責任を持つと、そして使いにくいところは変えていくと、是非そういう方向で進めていただきたいて思います。

（委員）
具体的にどこかの行政区で何かをやってて、それをモデルとしているのがあればお聞かせ願いたいのと、できましたら、いろいろなシュッピングモールとかそういうものをＩＴを活用していろいろいなところがやっていますけど、そういうところには、インターネットだけなんですけど、その奥に店長さんの思いがあったり、商品を作っている人の思いを感じられたり、ということがありますので、是非、きらめき財団の今の思いが伝わるようなものを作って頂きたいと思います。

（副理事長）
他県のわかる範囲で、参考にしているのは愛媛県で作っておられるのを県庁に行って調べていますが、新潟県とか、奈良県とかありますが、地域の実情とかコンセプトがあって異なりますから、あんまり先進事例というのは特にございません。いわば知事のよく言っている山口方式で、山口県だからやれるというのを理想をいえばそうなんですが、本当にユーザーの方が、県民活動をしたい人も、してほしい人もこのシステムの中にみんなとけ込んで頂いて、それぞれの奥にコアリーダーの方がおられて、その思いにも行き当たると

そういうことを考えておりまして、他県の先進事例も参考にはいたしますが、それぞれ違いますから。

何より、今一番悩んでいるのは山口県のネーミングもそうですけど、システムのコンセプトをどういった形で持っていくかを走りながら考えているところです。

例えば、愛媛県は、「いーよネット」といって美術館などの公共施設の割引があるといった地域通貨のような県有施設の利用券をポイント制にして渡しておられるとかを売りにしていますし、どういった形がいいのか、またご意見を頂きながらきちんとしたものにしていきたいと思います。

（委員）

今、島根県と広島県をまたにかけながらやっている活動の中で、環境のことをやってててよく出てくるのがコーディネーターやプロデューサーなんですけど、最近とみに言葉を多く使っているのが、インタープリターという言い方で随分議論しています。

今日のシステムの話を聞きながら情報の一元化というのはわからんわけではないですがひょっとしたらこれから先は一元化ではなくて、クラスターのような情報も、ＩＴの世界もクラスターの考え方もいるんじゃないかという思いが逆にしています。これだけ情報がいっぱいあってネットの中でも犬も歩けば棒に当たるという状況が今あるので、本当に必要なのかなというのが率直な思いです。だったらどういうシステムを構築するかというと、ちゃんとしたリンク集でいいのではないか。結構参考になるような、国の省庁のホームページのリンク集が非常に効率がいい。特に、地域づくりがらみで言うと国交省の地域振興に関わっているところの地域振興ライブラリーは全国の市町村レベルが合併以前のものがあったりするのですが、地域振興のためのプロジェクトを非常にコンパクトに、数が多くきれいに出てくるのですが、コクパクトというのが非常にいいと思うんですが、知りたいことというのは、そのグループや団体にアクセスしないと無理だと思うんですが、そういう一番最初の引き出しの役目というのは、リンク集でいいのではないかと思います。

無茶苦茶いっぱいあると、ホームページの中でどこをどう探せばいいかと。

情報が多くなればなるほど、分類の数が増えれば増えるほど使いにくくなるホームページはいっぱいあるので、そこら辺も、議論して頂きたいと思います。

技術的なことではなくて、大きくなることの弊害といっていいかもしれません。県内のそれぞれの団体や行政や地域やＮＰＯがちゃんとしたホームページを作って、そこにリンクしておくと、身近な一番いい例として、県民活動支援センターの助成金の情報ですよ。

（会長）

ありがとうございました。

では、今の「コーディネートシステム」について別のご質問・ご意見ありましたら、この意見票やメール等でお寄せ頂きたいと思います。

ではこれで本日の議題がすべて終了いたしました。審議を終わりたいと思います。どうも御協力ありがとうございました。